地下水汚染の未然防止のための措置について（素案）

1 構造基準等

- 1) 法第12条の4の環境省令で定める基準（有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設（以下、「有害物質特定施設等」という。）に係る構造、設備及び使用の方法に関する基準（構造基準等））については、以下の表1-1から表6-1及び表7の中欄に掲げるとおりとする。
- 2) 法の施行の際、現に設置されている有害物質使用特定施設等（設置の工事がなされているものを含む。）の構造基準等については、以下の表1-2から表6-2及び表7の中欄に掲げるとおりとする。

2 定期点検等

- 1) 法第14条第5項の規定による点検は、以下の表1-1から表6-1及び表7の右欄に掲げるとおりとする。法の施行の際、現に設置されている施設（設置の工事がなされているものを含む。）の点検については、以下の表1-2から表6-2及び表7の右欄に掲げるとおりとする。
- 2) 1)の点検により、有害物質使用特定施設等に係る異常が確認された場合には、直ちに補修等の必要な措置を講ずるものとする。
- 3) 1)の点検を行ったときは、次の事項を記録し、これを3年間保存しなければならない。
 - ①点検を行った有害物質使用特定施設等
 - ②点検の方法及び結果
 - ③点検の結果に基づいて補修等の措置を講じたときは、当該措置の内容
 - ④点検実施年月日
 - ⑤点検実施責任者及び点検を実施した者の氏名
- 4) 1)の点検によらず有害物質使用特定施設等に係る異常又は有害物質を含む水の漏えいが確認された場合には、その内容及び対応結果を記録し、これを3年間保存しなければならない。

(参考)

表1-1 床面及び周囲	表1-2 床面及び周囲（既設）	表5-1 排水溝等	表5-2 排水溝等（既設）
表2-1 施設本体	表2-2 施設本体（既設）	表6-1 地下貯蔵施設	表6-2 地下貯蔵施設（既設）
表3-1 配管等（地上配管）	表3-2 配管等（地上配管）（既設）	表7	使用の方法
表4-1 配管等（地下配管）	表4-2 配管等（地下配管）（既設）		

★次の事項は指針・マニュアルに記載する

- ・1)の点検については、工場又は事業場毎に、点検要領を明確に定めて実施するものとする。
上記の点検要領には、1)の点検のほか、作業前等を実施する日常的な点検（以下「日常点検」という。）、設備の異常が確認された場合の補修等の必要な措置の内容を含むものとする。
- ・また、1)の点検によらず、有害物質使用特定施設等に係る異常が確認された場合には、直ちに補修等の必要な措置を講ずるものとする。

表1-1 床面及び周囲

	構造、設備及び使用の方法に関する基準	定期点検の方法															
<p>新設基準 A基準</p>	<p>1 床面及び周囲の構造</p> <p>1) 有害物質使用特定施設等の設置場所の床面及び周囲は、次の①から④のいずれにも適合すること、又は⑤に適合することにより、有害物質を含む水の地下への浸透及び施設の外への流出を防止できる材質及び構造とすること</p> <p>① 床面は、コンクリート、タイルその他の不浸透材料による構造とすること</p> <p>② 床面は、有害物質の種類に応じ、耐性（耐薬品性）及び不浸透性を有する材質で被覆が施されていること</p> <p>③ 周囲は、有害物質を含む水の流出を防止することのできる防液堤、側溝（流出防止溝）、ためます（受槽）若しくはステンレス鋼の受け皿（以下、「防液堤等」という。）、又はこれらと同等以上の機能を有するものを設置すること</p> <p>④ ③の防液堤等は、想定される流出量分の有害物質を含む水の流出を防止できる容量を確保すること</p> <p>⑤ ①～④と同等以上の措置が講じられていること</p> <p>ただし、</p> <p>○有害物質使用特定施設等の設置場所の床の下の構造が、床面からの有害物質を含む水の漏えいを床の下から容易に点検できるものである場合には上記①から⑤は適用しない。</p> <p>○有害物質使用特定施設等に付帯する配管等（有害物質使用特定施設等に接続している配管等で、有害物質を含む水が流れる部分に限る。以下同じ。）であって、床面から離して設置されている場合、その設置場所の床面及び周囲（有害物質使用特定施設等の設置場所の周囲を除く。）には上記①から⑤は適用しない。</p>	<p>1 床面及び周囲の構造に係る点検</p> <p>1) 「1 床面及び周囲の構造」の1)の①～④に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 368 2150 499"> <tr> <td>①</td> <td>床面のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無</td> <td>1年に1回以上</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>防液堤等のひび割れ等の異常の有無</td> <td>1年に1回以上</td> </tr> </table> <p>なお、「1 床面及び周囲の構造」の1)の③において、同等以上の機能を有するものを設置する場合は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 624 2150 667"> <tr> <td>①</td> <td>措置に応じた定期点検の項目</td> <td>点検項目に応じた頻度</td> </tr> </table> <p>2) 「1 床面の構造」の1)の⑤に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 794 2150 837"> <tr> <td>①</td> <td>措置に応じた定期点検の項目</td> <td>点検項目に応じた頻度</td> </tr> </table> <p>3) 「1 床面の構造」の1)の①から⑤が適用されない場合は次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 1007 2150 1050"> <tr> <td>①</td> <td>床面のひび割れ、被覆の損傷の有無</td> <td>1月に1回以上</td> </tr> </table>	①	床面のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無	1年に1回以上	②	防液堤等のひび割れ等の異常の有無	1年に1回以上	①	措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度	①	措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度	①	床面のひび割れ、被覆の損傷の有無	1月に1回以上
①	床面のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無	1年に1回以上															
②	防液堤等のひび割れ等の異常の有無	1年に1回以上															
①	措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度															
①	措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度															
①	床面のひび割れ、被覆の損傷の有無	1月に1回以上															

表1-2 床面及び周囲（既設）

<p>既設基準</p> <p>A基準</p> <p>B基準</p>	<p>1既設 床面及び周囲の構造</p> <p>1) 既設の有害物質使用特定施設等の設置場所の床面及び周囲は、次の各号のいずれかによること</p> <p>①「1 床面及び周囲の構造」に規定する基準に適合すること</p> <p>②次の表のイに掲げる要件のいずれかに該当する場合には、ロに掲げる基準のいずれの要件にも適合すること</p> <table border="1" data-bbox="183 491 1189 1038"> <tr> <td data-bbox="183 491 241 871">イ</td> <td data-bbox="241 491 1189 871"> <p>(1) 有害物質使用特定施設等に係る施設本体が床面に接して設置され、施設本体の下部に点検可能な空間がなく、施設本体の接する床面が「1 床面及び周囲の構造」に規定する基準に適合しない場合</p> <p>(2) 施設本体が床面及び壁面に接して設置され、施設本体の下部及び壁面に点検可能な空間がなく、施設本体の接する床面及び壁面が「1 床面及び周囲の構造」に規定する基準に適合しない場合</p> <p>(3) 施設本体が地下室に設置され、施設本体の下部に点検可能な空間がなく、施設本体の接する床面が「1 床面及び周囲の構造」に規定する基準に適合しない場合</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 871 241 1038">ロ</td> <td data-bbox="241 871 1189 1038"> <p>(1) 施設本体の底面に接する面以外の床面及び周囲について、「1 床面及び周囲の構造」に規定する基準</p> <p>(2) 施設本体からの有害物質を含む水の漏えい等を検知するための設備の適切な配置など、漏えい等を確認できる構造とすること</p> </td> </tr> </table>	イ	<p>(1) 有害物質使用特定施設等に係る施設本体が床面に接して設置され、施設本体の下部に点検可能な空間がなく、施設本体の接する床面が「1 床面及び周囲の構造」に規定する基準に適合しない場合</p> <p>(2) 施設本体が床面及び壁面に接して設置され、施設本体の下部及び壁面に点検可能な空間がなく、施設本体の接する床面及び壁面が「1 床面及び周囲の構造」に規定する基準に適合しない場合</p> <p>(3) 施設本体が地下室に設置され、施設本体の下部に点検可能な空間がなく、施設本体の接する床面が「1 床面及び周囲の構造」に規定する基準に適合しない場合</p>	ロ	<p>(1) 施設本体の底面に接する面以外の床面及び周囲について、「1 床面及び周囲の構造」に規定する基準</p> <p>(2) 施設本体からの有害物質を含む水の漏えい等を検知するための設備の適切な配置など、漏えい等を確認できる構造とすること</p>	<p>1既設 床面及び周囲の構造に関する点検</p> <p>1) 「1既設 床面及び周囲の構造」の1)の①に係る点検は、「1 床面及び周囲の構造に係る点検」による。</p> <p>2) 「1既設 床面及び周囲の構造」の1)の②に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 491 2150 663"> <tr> <td data-bbox="1220 491 1825 576">① 床面及び防液堤等のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無</td> <td data-bbox="1825 491 2150 576">1年に1回以上</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1220 576 1825 663">② 設備からの有害物質を含む水の漏えい等の有無</td> <td data-bbox="1825 576 2150 663">1月に1回以上</td> </tr> </table> <p>ただし、上記2)の②と同等以上の点検項目及び頻度と認められる点検を行う場合には、この限りではない。</p>	① 床面及び防液堤等のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無	1年に1回以上	② 設備からの有害物質を含む水の漏えい等の有無	1月に1回以上
イ	<p>(1) 有害物質使用特定施設等に係る施設本体が床面に接して設置され、施設本体の下部に点検可能な空間がなく、施設本体の接する床面が「1 床面及び周囲の構造」に規定する基準に適合しない場合</p> <p>(2) 施設本体が床面及び壁面に接して設置され、施設本体の下部及び壁面に点検可能な空間がなく、施設本体の接する床面及び壁面が「1 床面及び周囲の構造」に規定する基準に適合しない場合</p> <p>(3) 施設本体が地下室に設置され、施設本体の下部に点検可能な空間がなく、施設本体の接する床面が「1 床面及び周囲の構造」に規定する基準に適合しない場合</p>									
ロ	<p>(1) 施設本体の底面に接する面以外の床面及び周囲について、「1 床面及び周囲の構造」に規定する基準</p> <p>(2) 施設本体からの有害物質を含む水の漏えい等を検知するための設備の適切な配置など、漏えい等を確認できる構造とすること</p>									
① 床面及び防液堤等のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無	1年に1回以上									
② 設備からの有害物質を含む水の漏えい等の有無	1月に1回以上									
<p>C基準</p>	<p>2) この省令の施行の日から起算して3年を経過する日までの間は、上記1)の基準に適合していない場合は、「1既設 床面及び周囲の構造に関する点検」の3)に定める点検を行わなければならない。</p>	<p>3) 「1既設 床面及び周囲の構造」の2)に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 1166 2150 1251"> <tr> <td data-bbox="1220 1166 1825 1251">① 床面のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無</td> <td data-bbox="1825 1166 2150 1251">1月に1回以上</td> </tr> </table>	① 床面のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無	1月に1回以上						
① 床面のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無	1月に1回以上									

(以下は指針・マニュアルに記載)

※対象となる既設施設とは： 今回の法改正に伴い制定される省令の施行の際現に設置されている（設置の工事がなされているものを含む。）法第2条第8項に規定する有害物質使用特定施設（法第5条第2項の規定に該当する場合を除く。）又は法第5条第3項に規定する有害物質貯蔵指定施設

表 2-1 施設本体

	構造、設備及び使用の方法に関する基準	定期点検の方法						
新設 基準 A 基準	2 施設本体 ※規定せず	2 施設本体に係る点検 1) 施設本体に関する点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。 <table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>施設本体のひび割れ、亀裂、損傷等の異常の有無</td> <td>1年に1回以上</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>施設本体からの有害物質を含む水の漏えいの有無</td> <td>1年に1回以上</td> </tr> </table>	①	施設本体のひび割れ、亀裂、損傷等の異常の有無	1年に1回以上	②	施設本体からの有害物質を含む水の漏えいの有無	1年に1回以上
①	施設本体のひび割れ、亀裂、損傷等の異常の有無	1年に1回以上						
②	施設本体からの有害物質を含む水の漏えいの有無	1年に1回以上						

表 2-2 施設本体 (既設)

既設 基準 A 基準 B 基準	2 既設 施設本体 ※規定せず	2 既設 施設本体に係る点検 ※「2 施設本体に係る点検」と同じ。
C 基準	※規定せず	※「2 施設本体に係る点検」と同じ。

表3-1 施設本体に付帯する配管等（地上配管）

	構造、設備及び使用の方法に関する基準	定期点検の方法							
新設 基準 A基準	<p>3 配管等</p> <p>1) 有害物質使用特定施設等の施設本体に付帯する配管等（配管本体、継手類、フランジ類、バルブ類、ポンプ設備等を含む。以下、「配管等」という。）は、次の各号のいずれかに適合することにより、有害物質を含む水の漏えい又は地下への浸透（以下、「漏えい等」という。）を防止できる材質及び構造とするか、又は漏えい等があった場合に漏えい等を確認できる構造とすること</p> <p>① 地上に設置する場合には、次のいずれかによること。</p> <p>イ 次のいずれかの要件に適合することにより、有害物質を含む水の漏えいを防止できる材質及び構造とすること</p> <p>(1) 有害物質を含む水の漏えいを防止できる強度を有すること</p> <p>(2) 有害物質により容易に劣化するおそれのないものであること</p> <p>(3) 配管の外表面は、原則として腐食を防止する方法により保護すること（ただし、当該配管が設置される条件の下で腐食するおそれのないものである場合にあっては、この限りではない）</p> <p>ロ 有害物質を含む水の漏えいが目視で容易に確認できるよう床面から離して設置すること</p>	<p>3 配管等に係る点検</p> <p>1) 「3 配管等」の1)に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 368 2150 496"> <tr> <td data-bbox="1220 368 1279 411">①</td> <td data-bbox="1279 368 1827 411">配管等の亀裂、損傷等の異常の有無</td> <td data-bbox="1827 368 2150 411">1年に1回以上</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1220 411 1279 496">②</td> <td data-bbox="1279 411 1827 496">配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無</td> <td data-bbox="1827 411 2150 496">1年に1回以上</td> </tr> </table>		①	配管等の亀裂、損傷等の異常の有無	1年に1回以上	②	配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無	1年に1回以上
①	配管等の亀裂、損傷等の異常の有無	1年に1回以上							
②	配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無	1年に1回以上							

表3-2 施設本体に付帯する配管等（既設地上配管）

<p>既設基準</p> <p>A基準</p> <p>B基準</p>	<p>3既設 配管等</p> <p>1) 既設の有害物質使用特定施設等の施設本体に付帯する配管等であって、地上に設置する場合には、次の各号のいずれかによること</p> <p>①「3 配管等」の1)の①に規定する基準に適合すること</p> <p>②原則として有害物質を含む水の漏えいが目視で確認できるように設置してあること</p>	<p>3既設 配管等に係る点検</p> <p>1) 「3既設 配管等」の1)の①に係る点検は、「3 配管等に係る点検」による。</p> <p>2) 「3既設 配管等」の1)の②に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 451 2150 579"> <tr> <td>①</td> <td>配管等の亀裂、損傷等の異常の有無</td> <td>6月に1回以</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無</td> <td>6月に1回以上</td> </tr> </table>	①	配管等の亀裂、損傷等の異常の有無	6月に1回以	②	配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無	6月に1回以上
①	配管等の亀裂、損傷等の異常の有無	6月に1回以						
②	配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無	6月に1回以上						
<p>C基準</p>	<p>2) この省令の施行の日から起算して3年を経過する日までの間は、上記1)の基準に適合していない場合は、「3既設 配管等に係る点検」の3)に基づく点検を行わなければならない。</p>	<p>3) 「3既設 配管等」の2)に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 691 2150 818"> <tr> <td>①</td> <td>配管等の亀裂、損傷等の異常の有無</td> <td>6月に1回以上</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無</td> <td>6月に1回以上</td> </tr> </table>	①	配管等の亀裂、損傷等の異常の有無	6月に1回以上	②	配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無	6月に1回以上
①	配管等の亀裂、損傷等の異常の有無	6月に1回以上						
②	配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無	6月に1回以上						

表4-1 施設本体に付帯する配管等（地下配管）

<p>新設 基準 A基準</p>	<p>(「3 配管等」の1)のつづき</p> <p>② 地下に設置する場合には、次のイ、ロ、ハ及びヒ、又はニのいずれかに適合すること。</p> <p>イ 次の要件のうち、(1)から(3)のいずれも、又は(1)及び(4)に適合することにより、有害物質を含む水の漏えい等を防止できる材質及び構造とすること。</p> <p>(1) トレンチ（細長い溝）の中に設置し、配管等からの有害物質を含む水の漏えいを確認できる構造とすること。</p> <p>(2) トレンチの底面及び側面は、有害物質を含む水の浸透を防止できるコンクリート、タイルその他の不浸透材料によること。</p> <p>(3) トレンチの底面の表面は、有害物質の種類に応じ、耐性（耐薬品性）及び不浸透性を有する被覆が施されていること。</p> <p>(4) (2)及び(3)と同等以上の措置が講じられていること。</p> <p>ロ 次の要件のいずれにも適合すること。</p> <p>(1) 有害物質を含む水の漏えいを防止できる強度を有すること</p> <p>(2) 有害物質により容易に劣化するおそれのないものであること</p> <p>(3) 配管の外面は、原則として腐食を防止する方法により保護すること（ただし、当該配管が設置される条件の下で腐食するおそれのないものである場合にあっては、この限りではない）</p> <p>ハ 配管等からの有害物質を含む水の漏えい等を検知するための設備の適切な配置、有害物質を含む水の流量の変動を計測するための設備の配置など、漏えい等を確認できる設備を設けること。</p>	<p>(「3 配管等に係る点検」のつづき)</p> <p>2) 「3 配管等」の②のイの(1)から(3)のいずれもの要件に適合する場合の点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 363 2145 579"> <tr> <td>①</td> <td>配管等の亀裂、損傷等の異常の有無</td> <td>1年に1回以上</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無</td> <td>1年に1回以上</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>トレンチの側面、底面のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無</td> <td>1年に1回以上</td> </tr> </table> <p>3) 「3 配管等」の②のイの(1)及び(4)の要件に適合する場合の点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 667 2145 794"> <tr> <td>①</td> <td>配管等の亀裂、損傷等の異常の有無</td> <td>1年に1回以上</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td>「3 配管等」の②のイの(4)の要件に係る措置に応じた定期点検の項目</td> <td>点検項目に応じた頻度</td> </tr> </table> <p>4) 「3 配管等」の②のロに適合する場合（ロ及びハに適合する場合を除く。）の点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 922 2145 1137"> <tr> <td>①</td> <td>配管等の内部の気体の圧力の変動又は配管等の内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の配管等からの漏れの点検</td> <td>1年に1回以上</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>その他①と同等以上に有害物質を含む水の漏れが確認できる方法による点検</td> <td>点検項目に応じた頻度</td> </tr> </table> <p>5) 「3 配管等」の②のロ及びハに適合する場合の点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 1265 2145 1430"> <tr> <td>①</td> <td>上記4)の①の検査</td> <td>3年に1回以上</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>その他①と同等以上に有害物質を含む水の漏れが確認できる方法による点検</td> <td>点検項目に応じた頻度</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>地下配管等からの有害物質を含む水の漏え</td> <td>1週間に1回以上</td> </tr> </table>	①	配管等の亀裂、損傷等の異常の有無	1年に1回以上	②	配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無	1年に1回以上	③	トレンチの側面、底面のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無	1年に1回以上	①	配管等の亀裂、損傷等の異常の有無	1年に1回以上	①	「3 配管等」の②のイの(4)の要件に係る措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度	①	配管等の内部の気体の圧力の変動又は配管等の内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の配管等からの漏れの点検	1年に1回以上	②	その他①と同等以上に有害物質を含む水の漏れが確認できる方法による点検	点検項目に応じた頻度	①	上記4)の①の検査	3年に1回以上	②	その他①と同等以上に有害物質を含む水の漏れが確認できる方法による点検	点検項目に応じた頻度	②	地下配管等からの有害物質を含む水の漏え	1週間に1回以上
①	配管等の亀裂、損傷等の異常の有無	1年に1回以上																														
②	配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無	1年に1回以上																														
③	トレンチの側面、底面のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無	1年に1回以上																														
①	配管等の亀裂、損傷等の異常の有無	1年に1回以上																														
①	「3 配管等」の②のイの(4)の要件に係る措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度																														
①	配管等の内部の気体の圧力の変動又は配管等の内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の配管等からの漏れの点検	1年に1回以上																														
②	その他①と同等以上に有害物質を含む水の漏れが確認できる方法による点検	点検項目に応じた頻度																														
①	上記4)の①の検査	3年に1回以上																														
②	その他①と同等以上に有害物質を含む水の漏れが確認できる方法による点検	点検項目に応じた頻度																														
②	地下配管等からの有害物質を含む水の漏え	1週間に1回以上																														

ニ その他のイ、ロ、又はロ及びハのいずれかと同等以上に有害物質を含む水の漏えい等を防止できる措置を講ずること	い等の有無を確認すること		
	6) 「3 配管等」のニに係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 5%;">①</td> <td style="width: 75%;">措置に応じた定期点検の項目</td> <td style="width: 20%;">点検項目に応じた頻度</td> </tr> </table>	①	措置に応じた定期点検の項目
①	措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度	

表4-2 施設本体に付帯する配管等（既設地下配管）

<p>既設基準 A基準</p> <p>B基準</p>	<p>（「3既設 配管等」のつづき）</p> <p>2) 既設の有害物質使用特定施設等の施設本体に付帯する配管等であって、地下に設置する場合には、次の各号のいずれかに適合すること</p> <p>①「3 配管等」の1)の②に規定する基準に適合すること。</p> <p>②トレンチ中に設置し、漏えいを確認できる構造としてあること。</p> <p>③上記1)の②のハによること。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>（再掲）</p> <p>ハ 配管等からの有害物質を含む水の漏えい等を検知するための設備の適切な配置、有害物質を含む水の流量の変動を計測するための設備の配置など、漏えい等を確認できる設備を設けること。</p> </div> <p>④その他の②又は③と同等以上に有害物質を含む水の漏えい等を防止できる措置を講ずること</p>	<p>（「3既設 配管等に係る点検」のつづき）</p> <p>4) 「3既設 配管等」の2)の①に係る点検は「3 配管等に係る点検」による。</p> <p>5) 「3既設 配管等」の2)の②に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 491 2145 707"> <tr> <td>① 配管等の亀裂、損傷等の異常の有無</td> <td>6月に1回以上</td> </tr> <tr> <td>② 配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無</td> <td>6月に1回以上</td> </tr> <tr> <td>③ トレンチの側面、底面のひび割れ、被覆の損傷の有無</td> <td>6月に1回以上</td> </tr> </table> <p>6) 「3既設 配管等」の2)の③に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 831 2145 919"> <tr> <td>① 地下配管等からの有害物質を含む水の漏えい等の有無を確認すること</td> <td>1週間に1回以上</td> </tr> </table> <p>7) 「3既設 配管等」の2)の④に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 1086 2145 1129"> <tr> <td>① 措置に応じた定期点検の項目</td> <td>点検項目に応じた頻度</td> </tr> </table>	① 配管等の亀裂、損傷等の異常の有無	6月に1回以上	② 配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無	6月に1回以上	③ トレンチの側面、底面のひび割れ、被覆の損傷の有無	6月に1回以上	① 地下配管等からの有害物質を含む水の漏えい等の有無を確認すること	1週間に1回以上	① 措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度
① 配管等の亀裂、損傷等の異常の有無	6月に1回以上											
② 配管等からの有害物質を含む水の漏えいの有無	6月に1回以上											
③ トレンチの側面、底面のひび割れ、被覆の損傷の有無	6月に1回以上											
① 地下配管等からの有害物質を含む水の漏えい等の有無を確認すること	1週間に1回以上											
① 措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度											
<p>C基準</p>	<p>3) この省令の施行の日から起算して3年を経過する日までの間は、上記1)の基準に適合していない場合は、「3既設 配管等に係る点検」の8)に基づく点検を行わなければならない。</p>	<p>8) 「3既設 配管等」の3)に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 1249 2145 1420"> <tr> <td>① 配管等の内部の気体の圧力の変動又は配管等の内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の配管等からの漏れの点検</td> <td>1年に1回以上</td> </tr> <tr> <td>② その他①と同等以上に有害物質を含む水の</td> <td>点検項目に応じた頻度</td> </tr> </table>	① 配管等の内部の気体の圧力の変動又は配管等の内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の配管等からの漏れの点検	1年に1回以上	② その他①と同等以上に有害物質を含む水の	点検項目に応じた頻度						
① 配管等の内部の気体の圧力の変動又は配管等の内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の配管等からの漏れの点検	1年に1回以上											
② その他①と同等以上に有害物質を含む水の	点検項目に応じた頻度											

		漏れが確認できる方法による点検	
--	--	-----------------	--

表5-1 排水溝等

<p>新設 基準 A 基準</p>	<p>4 排水溝等</p> <p>1) 有害物質使用特定施設等の施設本体に付帯する排水溝、排水ます及び排水ポンプ等の排水系統の設備（以下、「排水溝等」という。）は、次の①、①及び②、又は③のいずれかに適合することにより、有害物質を含む水の地下への浸透を防止することができる材質及び構造とするか、又は地下への浸透があった場合に地下への浸透を確認できる構造とすること</p> <p>① 次の要件のいずれにも適合すること</p> <p>イ 有害物質を含む水の地下への浸透を防止できる強度を有すること</p> <p>ロ 有害物質により容易に劣化するおそれのないものであること</p> <p>ハ 排水溝等の表面は、有害物質の種類に応じ、耐性（耐薬品性）及び不浸透性を有する材質で被覆が施されていること（P）</p> <p>② 排水溝等からの有害物質を含む水の地下への浸透を検知するための設備の適切な配置、有害物質を含む水の流量の変動を計測するための設備の配置など、漏えい等を確認できる設備を設けること。（P）</p> <p>③ その他の①又は②と同等以上に排水溝等からの有害物質を含む水の地下への浸透を防止できる措置を講ずること</p>	<p>4 排水溝等に係る点検</p> <p>1) 「4 排水溝等」の1)の①のイからハのいずれもの基準に適合する場合の点検（①及び②の基準に適合する場合を除く。）は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 534 2145 619"> <tr> <td>①</td> <td>排水溝等のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無</td> <td>1年に1回以上</td> </tr> </table> <p>2) 「4 排水溝等」の1)の①及び②の基準に適合する場合の点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。（P）</p> <table border="1" data-bbox="1220 746 2145 874"> <tr> <td>①</td> <td>上記1)の点検</td> <td>3年に1回以上</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>排水溝等からの有害物質を含む水の地下への浸透の有無</td> <td>1週間に1回以上</td> </tr> </table> <p>3) 「4 排水溝等」の1)の③に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 1002 2145 1045"> <tr> <td>①</td> <td>措置に応じた定期点検の項目</td> <td>点検項目に応じた頻度</td> </tr> </table>	①	排水溝等のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無	1年に1回以上	①	上記1)の点検	3年に1回以上	②	排水溝等からの有害物質を含む水の地下への浸透の有無	1週間に1回以上	①	措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度
①	排水溝等のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無	1年に1回以上												
①	上記1)の点検	3年に1回以上												
②	排水溝等からの有害物質を含む水の地下への浸透の有無	1週間に1回以上												
①	措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度												

表5-2 排水溝等（既設）

<p>既設基準</p> <p>A基準</p> <p>B基準</p>	<p>4既設 排水溝等</p> <p>1) 既設の有害物質使用特定施設等の施設本体に付帯する排水溝等の構造は、次の①、②、又は③のいずれかに適合すること</p> <p>① 「4 排水溝等」に規定する基準に適合すること</p> <p>② 「4 排水溝等」の1)の②に適合すること (再掲) ② 排水溝等からの有害物質を含む水の地下への浸透を検知するための設備の適切な配置、有害物質を含む水の流量の変動を計測するための設備の配置など、地下への浸透を確認できる設備を設けること。(P)</p> <p>③ その他の②と同等以上に排水溝等からの有害物質を含む水の地下への浸透を防止できる措置を講ずること</p>	<p>4既設 排水溝等に係る点検</p> <p>1) 「4既設 排水溝等」の1)の①に係る点検は「4 排水溝等に係る点検」による。</p> <p>2) 「4既設 排水溝等」の1)の②に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 491 2150 667"> <tr> <td>①</td> <td>排水溝等のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無</td> <td>6月に1回以上</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>排水溝等からの有害物質を含む水の地下への浸透の有無</td> <td>1週間に1回以上</td> </tr> </table> <p>3) 「4既設 排水溝等」の1)の③に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 790 2150 837"> <tr> <td>①</td> <td>措置に応じた定期点検の項目</td> <td>点検項目に応じた頻度</td> </tr> </table>	①	排水溝等のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無	6月に1回以上	②	排水溝等からの有害物質を含む水の地下への浸透の有無	1週間に1回以上	①	措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度
①	排水溝等のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無	6月に1回以上									
②	排水溝等からの有害物質を含む水の地下への浸透の有無	1週間に1回以上									
①	措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度									
<p>C基準</p>	<p>2) この省令の施行の日から起算して3年を経過する日までの間は、上記1)の基準に適合していない場合は、「4既設 排水溝等に係る点検」の4)に基づく点検を行わなければならない。</p>	<p>4) 「4既設 排水溝等」の2)に係る点検は、次の①及び②、又は③に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1220 957 2150 1257"> <tr> <td>①</td> <td>排水溝等のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無</td> <td>1月に1回以上</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>排水溝等の内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の排水溝等からの漏れの点検</td> <td>1年に1回以上</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>その他①及び②と同等以上の定期点検の項目</td> <td>点検項目に応じた頻度</td> </tr> </table>	①	排水溝等のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無	1月に1回以上	②	排水溝等の内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の排水溝等からの漏れの点検	1年に1回以上	③	その他①及び②と同等以上の定期点検の項目	点検項目に応じた頻度
①	排水溝等のひび割れ等の異常の有無、被覆の損傷の有無	1月に1回以上									
②	排水溝等の内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の排水溝等からの漏れの点検	1年に1回以上									
③	その他①及び②と同等以上の定期点検の項目	点検項目に応じた頻度									

表6-1 地下貯蔵施設

<p>新設 基準 A 基準</p>	<p>5 地下貯蔵施設</p> <p>1) 地下貯蔵施設本体及び付帯する配管等のうち、地下貯蔵施設本体は、次の①及び②、①から③のいずれも、又は④のいずれかに適合することにより、有害物質を含む水の漏えい等を防止できる材質及び構造とするか、又は漏えい等があった場合に漏えい等を確認できる構造とすること。</p> <p>① 地下貯蔵施設本体は、次の各号に適合することにより、有害物質を含む水の漏えい等を防止できる材質及び構造とすること</p> <p>イ 貯蔵施設本体は、地下室内に設置する構造、二重殻構造又はその他有害物質を含む水の漏えい等を防止する措置を講じた構造及び材質とすること</p> <p>ロ 貯蔵施設本体の外表面は、原則として腐食を防止する方法により保護すること（ただし、設置される条件の下で腐食するおそれのないものである場合にあっては、この限りではない）</p> <p>② 有害物質を含む水の量を表示する装置を設けること</p> <p>③ 地下貯蔵施設からの有害物質を含む水の漏えい等を検知するための設備の適切な配置、有害物質を含む水の流量又は貯蔵量の変動を計測するための設備の配置など、漏えい等を確認できる設備を設けること。</p> <p>④ その他①及び②、又は①から③のいずれもと同等以上に漏えい等が防止できる措置を講ずること</p> <p>2) 地下貯蔵施設に付帯する配管等は、「3 配管等」によること。</p>	<p>5 地下貯蔵設備等</p> <p>1) 「5 地下貯蔵施設」の1)の①及び②の基準に適合する場合には、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1272 451 2150 662"> <tr> <td>①</td> <td>地下貯蔵施設本体の内部の気体の圧力の変動又は地下貯蔵施設本体の内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の地下貯蔵施設本体からの漏れの点検</td> <td>1年1回以上</td> </tr> </table> <p>2) 「5 地下貯蔵施設」の1)の①から③のいずれもの基準に適合する場合には、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1272 831 2150 962"> <tr> <td>①</td> <td>上記1)の点検</td> <td>3年に1回以上</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>地下貯蔵施設本体からの有害物質を含む水の漏えい等の有無を確認すること</td> <td>1週に1回以上</td> </tr> </table> <p>3) 「5 地下貯蔵施設」の1)の④に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1272 1086 2150 1133"> <tr> <td>①</td> <td>措置に応じた定期点検の項目</td> <td>点検項目に応じた頻度</td> </tr> </table> <p>4) 「5 地下貯蔵施設」の2)に係る点検は、「3 配管等に係る点検」によること。</p>	①	地下貯蔵施設本体の内部の気体の圧力の変動又は地下貯蔵施設本体の内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の地下貯蔵施設本体からの漏れの点検	1年1回以上	①	上記1)の点検	3年に1回以上	②	地下貯蔵施設本体からの有害物質を含む水の漏えい等の有無を確認すること	1週に1回以上	①	措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度
①	地下貯蔵施設本体の内部の気体の圧力の変動又は地下貯蔵施設本体の内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の地下貯蔵施設本体からの漏れの点検	1年1回以上												
①	上記1)の点検	3年に1回以上												
②	地下貯蔵施設本体からの有害物質を含む水の漏えい等の有無を確認すること	1週に1回以上												
①	措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度												

表6-2 地下貯蔵設備等（既設）

<p>既設 基準</p> <p>A 基準</p> <p>B 基準</p>	<p>5既設 地下貯蔵施設</p> <p>1) 既設の地下貯蔵施設のうち、地下貯蔵施設本体は、次の①から④のいずれかに適合すること。</p> <p>① 「5 地下貯蔵施設」に規定する基準に適合すること</p> <p>② 「5 地下貯蔵施設」の1)の要件のうち、②及び③の要件に適合すること。 (再掲)</p> <p>② 有害物質を含む水の量を表示する装置を設けること</p> <p>③ 地下貯蔵施設からの有害物質を含む水の漏えい等を検知するための設備の適切な配置、有害物質を含む水の流量又は貯蔵量の変動を計測するための設備の配置など、漏えい等を確認できる設備を設けること。</p> <p>③ 次の要件に適合すること。</p> <p>イ 「5 地下貯蔵施設」の1)の要件のうち、②の要件に適合すること。</p> <p>ロ 有害物質を含む水の漏えい等を防止することを目的として、貯蔵設備の内面ライニングを行うこと。</p> <p>④ その他の①又は②と同等以上に有害物質を含む水の漏えい等を防止できる措置を講ずること</p>	<p>5既設 地下貯蔵施設に係る点検</p> <p>1) 「5既設 地下貯蔵施設」の1)の①に係る点検は、「5 地下貯蔵施設」による。</p> <p>2) 「5既設 地下貯蔵施設」の1)の②に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1276 534 2150 622"> <tr> <td>① 地下貯蔵施設本体からの有害物質を含む水の漏えい等の有無を確認すること</td> <td>1週に1回以上</td> </tr> </table> <p>3) 「5既設 地下貯蔵施設」の1)の③に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1276 829 2150 1045"> <tr> <td>① 地下貯蔵施設本体の内部の気体の圧力の変動又は地下貯蔵施設本体内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の地下貯蔵施設からの漏れの点検</td> <td>1年に1回以上</td> </tr> </table> <p>4) 「5既設 地下貯蔵施設」の1)の④に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p> <table border="1" data-bbox="1276 1165 2150 1212"> <tr> <td>① 措置に応じた定期点検の項目</td> <td>点検項目に応じた頻度</td> </tr> </table>	① 地下貯蔵施設本体からの有害物質を含む水の漏えい等の有無を確認すること	1週に1回以上	① 地下貯蔵施設本体の内部の気体の圧力の変動又は地下貯蔵施設本体内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の地下貯蔵施設からの漏れの点検	1年に1回以上	① 措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度
① 地下貯蔵施設本体からの有害物質を含む水の漏えい等の有無を確認すること	1週に1回以上							
① 地下貯蔵施設本体の内部の気体の圧力の変動又は地下貯蔵施設本体内部の水の水位の変動の確認による有害物質を含む水の地下貯蔵施設からの漏れの点検	1年に1回以上							
① 措置に応じた定期点検の項目	点検項目に応じた頻度							
	<p>2) 地下貯蔵施設に付帯する配管等は、「4 配管等」によること。</p>	<p>5) 「5既設 地下貯蔵施設」の2)に係る点検は、「4 配管等に係る点検」によること。</p>						

C基準	3) この省令の施行の日から起算して3年を経過する日までの間は、上記1)の基準に適合していない場合は、「5既設 地下貯蔵施設に係る点検」の6)に基づく点検を行わなければならない。	6) 「5既設 地下貯蔵施設」の3)に係る点検は、次の各号のいずれかに掲げる項目及び頻度で行う。	
		① 上記3)の点検	1年に1回以上
		② その他①と同等以上に有害物質を含む水の漏れが確認できる方法による点検	点検項目に応じた頻度
	4) 地下貯蔵施設に付帯する配管等は、「4 配管等」によること。	7) 「5既設 地下貯蔵施設」の4)に係る点検は、「4 配管等に係る点検」によること。	

表7 使用の方法

新設 基準	<p>6 使用の方法</p> <p>1) 有害物質使用特定施設等に係る作業及び運転は、有害物質が地下に浸透したり、周囲に飛散したり、流出したりしないよう、次の方法で行うこと</p>	<p>6 使用の方法に係る点検</p> <p>1) 「6 使用の方法」に係る点検は、次の各号に掲げる項目及び頻度で行う。</p>	
既設 基準	<p>① 有害物質を含む水の受け入れ、移し替え、分配等の作業は、有害物質を含む水が地下に浸透したり、周囲に飛散したり、流出したりしないような方法で行うこと</p> <p>② 有害物質を含む水の補給状況や設備の作動状況の確認等、施設又は設備の適正な運転を行うこと</p> <p>③ 有害物質を含む水が漏えいした場合には、直ちに漏えいを防止する措置を講ずるとともに、当該漏えいした有害物質を含む水を回収し、再利用するか又は環境保全上支障のないよう適切に処理すること</p> <p>2) 有害物質使用特定施設等の使用の方法に関する管理要領が明確に定められていること</p>	<p>① 使用の方法に関する管理要領からの逸脱及びそれに伴う飛散、浸透、流出の有無</p>	<p>使用の方法に関する管理要領に基づき設定</p>

参考 地下水汚染の未然防止のための措置に関する整理表(素案) (A基準)

A基準		1		2		3				4			5				6使用方法	
		床面及び周囲		施設本体	配管等(地上)		配管等(地下)		排水溝等			地下貯蔵設備等						
		1)	ただし書き		1)①イ	1)①ロ	1)②イ	1)②ロ	1)②ロハ	1)②ニ	1)①	1)①②	1)③	地下貯蔵設備		配管等		
		1)										1)①②	1)①②③	1)④				
構造・設備	地下浸透防止	●不浸透材料構造 ▲(種類に応じ)被覆 ○↓同等以上	●床下点検空間									●強度 ●耐性 ▲(種類に応じ)被覆	●強度 ●耐性 ▲(種類に応じ)被覆					
	流出防止	●防液堤等 ●容量確保 ○↓同等以上																
	漏えい防止			●強度 ●耐性 ▲耐腐食					同等以上			同等以上				同等以上		
	漏えい等防止 (漏えい、地下浸透)					(配管等) ●強度 ●耐性 ▲耐腐食	(配管等) ●強度 ●耐性 ▲耐腐食						●二重殻等 ▲耐腐食	●二重殻等 ▲耐腐食				
	漏えい又は地下浸透 確認設備			●床面から離して設置	(トレンチ) ●トレンチ中設置 ●不浸透材料構造 ▲(種類に応じ)被覆 ○↓同等以上(材質・構造)	●漏えい等確認構造 (検査管、流量把握等)				●漏えい等確認構造 (検査管、流量把握等)		●水量計 ●漏えい等確認構造 (検査管、流量把握等)	●水量計 ●漏えい等確認構造 (検査管、流量把握等)					3 1)②
管理	飛散・流出・浸透防止																	●(要領)
点検	破損等の確認	目視等	○↑同等以上	M	Y	Y	Y	Y	Y (配管) (トレンチ) ○↑同等以上			Y	3Y					
		検査							Y ・漏れ検査 ○同等以上	3Y ・漏れ検査 ○同等以上	同等以上		Y ・漏れ検査 ○同等以上	3Y ・漏れ検査 ○同等以上	同等以上			
	漏えい・浸透・流出の有無	目視等			Y	Y	Y	Y (配管)										
		設備使用							W ・漏れの検知			W ・漏れの検知		W ・漏れの検知				
備考		・周囲外の配管等の下の床面除く	・周囲外の配管等の下の床面除く															

※異常・漏えい確認時 → その内容及び対応結果を記録 3年間保存
 (備考) Y:1年1回以上、M:1月1回以上、W:1週1回以上、○Y:○年1回以上; ●要件、▲必要な場合、○同等以上; 「」の区切りは隣り合う項目のいずれかを選択できることを示す

参考 地下水汚染の未然防止のための措置に関する整理表(素案) (B基準)

B基準		1既設	2既設	3既設				4既設		5既設			6使用方法			
		床面及び 周囲	施設本体	配管等(地上)	配管等(地下)			排水溝等		地下貯蔵施設						
		1)②		1)②	2)②	2)③	2)④	1)②	1)③	1)②	1)③	1)④		配管等		
構造・ 設備	地下浸透防止	【底面外】 ●不浸透材料 構造 ▲(種類に応じ) 被覆 ○↓同等以上	規定せず													
	流出防止	【底面外】 ●防液堤等 ●容量確保 ○↓同等以上														
	漏えい防止							同等以上		同等以上				同等以上		
	漏えい・地下浸透防止											●内面ライ ニング				
	漏えい又は地下浸透 確認設備	【底面】 ●漏えい等確 認構造 (検査管等)		●原則とし て目視で確 認できるよう に設置	●トレンチ 中設置	●漏えい等 確認構造 (検査管、 流量把握 等)		●漏えい等 確認構造 (検査管、 流量把握 等)		●水量計 ●漏えい等 確認構造 (検査管、 流量把握 等)	●水量計			3既設 2)		
管理	飛散・流出・浸透防止														● (要領)	
点検	破損等の 確認	目視等	【底面外】 Y ○↑同等以上	Y	6M	6M (配管) (トレンチ)		6M								
		検査									Y ・漏れ検査 ○同等以上					
	漏えい・浸 透・ 流出の有無	目視等		Y	6M	6M (配管)	同等以上		同等以上				同等以上			
		設備 使用	【底面】 M ・漏れの検知 ○同等以上				W ・漏れの検 知		W ・漏れの検 知		W ・漏れの検 知					
備考		・周囲外の配管 等の下の床面 除く														

※異常・漏えい確認時 → その内容及び対応結果を記録 3年間保存
 (備考) Y:1年1回以上、M:1月1回以上、W:1週1回以上、○Y:○年1回以上; ●要件、▲必要な場合、○同等以上; 「 」の区切りは隣り合う項目のいずれかを選択できることを示す

参考 地下水汚染の未然防止のための措置に関する整理表(素案) (C基準)

C基準		1既設		2既設		3既設		4既設		5既設		6使用方法
		床面		施設本体	配管等(地上)	配管等(地下)	排水溝等		地下貯蔵施設			
		2)			2)	3)②	2)		地下貯蔵施設本体	配管等		
										3)		
構造・設備	地下浸透防止										3既設 3)②	
	流出防止											
	漏えい防止											
	漏えい・地下浸透防止											
	漏えい又は地下浸透確認設備											
管理	飛散・流出・浸透防止											● (要領)
点検	破損等の確認	目視等	M	Y	6M		M					
		検査				Y ・漏れ検査 ○同等以上	Y ・漏れ検査 (※量のみ) ○同等以上	○同等以上	Y ・漏れ検査 ○同等以上			
	漏えい・浸透・流出の有無	目視等		Y	6M							
		設備使用										
備考		・周囲外の配管等の下の床面除く										

※異常・漏えい確認時 → その内容及び対応結果を記録 3年間保存
 (備考) Y:1年1回以上、M:1月1回以上、W:1週1回以上、OY:○年1回以上; ●要件、▲必要な場合、○同等以上; -/- の区切りは隣り合う項目のいずれかを選択できることを示